雲龍図

客殿には、著名な芸術家である堂本印象によって制作され、1950年に神社に寄贈された大きな白黒の飛龍の絵も展示されています。

この作品は元に古い京都の神社の建物の天井に施されていましたが、2012年には大原の新しい場所に保管されました。新しい神社の建物の天井は、作品を収めるには低すぎたため、今では客殿の壁のほぼ全体を覆っています。

高さ約2.5メートル、幅5メートルの作品は、「雲龍」というタイトルで、3つのパネルにまたがって紙に描かれています。

龍は、その爪の中に球体をつかむように描かれており、全体の画像は、龍が神の命令の僕であるという考えを伝えるように設計されています。

堂本は、京都の東福寺の堂の一つの天井を飾る鮮やかな「青龍」をはじめ、日本の他の寺院や神社のために数百の同様の作品を描いた。

1590年に日本を統一した豊臣秀吉は、1587年に京都へ来たおりに後陽成天皇を招待し共に参拝をしました。このことが、小作農民の秀吉が日本で最も力をもつ立場にまで上り詰めたことを示しています。

言い伝えによると、その際に天皇がこの神社を「出世稻荷神社」と名付けたと言われています。神社は今日まで成功の神として、ビジネスや人生の幸運を願う参拝者を集めています。